



# 鹿田小だより



元気いっぱい 勉強こつこつ 親切ハートの  
岡山市立鹿田小学校



令和3年度 第10号 8月30日



## さあ、2学期のスタートだ！

### 3 こんな夏休みに

- ①健康第一  
3密を避ける。KKTを守
- ②チャレンジ  
夏休みだからできること
- ③心のブレーキ  
してよいことか考えて



### 特に気をつけること！

- ◎休み時間の過ごし方
  - ①友達とくっつかない。
  - ②廊下や階段で集まらない。



7月20日から始まった41日間の夏休みが終わり、今日から2学期が始まりました。昨年の25日間という短い夏休みに比べ、例年と同じ40日を超える夏休みではありましたが、今年度も新型コロナウイルス感染症に気を付けながらの夏休みとなりました。そのため、友達と思いきり遊んだり、自由に出掛けたりすることがなかなかできず、充実した夏休みとは言えなかったかもしれませんが、子どもたちは「夏休みだからできること」に、挑戦することはできたでしょうか。

「緊急事態宣言」が出されている中始まった2学期は、今まで以上に、新型コロナウイルス感染症対策を徹底していかなければいけません。学校教育活動を継続していくことはもちろん必要ですが、一番大切なもの、それは子どもたちの健康を守ることです。宣言期間中、学校では主に右のような対策を徹底していくことにしており、始業式では「自分の健康は自分で守ろう。」と話しました。ご家庭でも、毎朝の検温や健康観察記録表への記入など、お子様の健康管理をどうぞよろしくお願ひします。また、熱中症にもまだまだ注意が必要です。水筒や汗拭き用のタオルの準備などについても、よろしくお願ひします。

### 新型コロナウイルス感染症対策

- ＜換気＞
  - ・教室などでは窓などを対角線で2か所以上開けて、常時換気をお願いします。
- ＜間隔＞
  - ・教室では机の間をできるだけ広く取るように机を配置します。
  - ・休み時間は基本的には教室で静かに過ごし、友達とは適切な間隔を取るよう指導します。
- ＜手洗い＞
  - ・外から帰ったとき、給食の前後、掃除やトイレの後など、こまめに正しく手を洗うよう呼びかけます。
- ＜マスク＞
  - ・学校では原則マスクを着用します。熱中症が心配される場合は、マスクをはずして間隔を取るよう指導します。
- ＜その他＞
  - ・健康観察記録表は、朝教室に入る前に確認するようにします。
  - ・話し合い活動は短時間にし、必要最低限の音量で話すよう指導します。
  - ・体育の集団での運動や音楽の歌唱、家庭科の調理実習など、感染リスクの高い活動は、当面行いません。

## 子どもたちの安全のために ～ 全職員が真剣に取り組みました ～

### 不審者対応研修

#### ～ 不審者が校内に侵入してきたら・・・ ～

不審者が校内に入ってきたことを想定し、西署のスクールサポーターの方にお越しいただいて毎年実施しています。今年は5年C組に不審者が侵入したという設定で訓練をしました。スクールサポーターの方からは、来校者への声の掛け方、隣の教室への子どもたちの誘導の仕方、机や椅子などを使って不審者の動きを止める方法などを教えていただきました。



授業中の設定です。先生たちが児童役です。



教室の後ろから不審な人が。児童は隣の教室へ。



身を守るため、担任は椅子を持って対応します。



放送を聞いた先生たちが応援に駆け付けました。



全員で振り返り。大切なことを確認しました。

### 危機管理研修

#### ～ 子どもを救急車で搬送するときは・・・ ～

子どもたちは学校でけがをしたり、体調を崩したりすることがありますが、その多くは保健室で手当てをしたり休んだりして、また教室へ戻って学習を続けることができます。しかし時には、急いで病院で手当てを受けなければならないことがあります。傷病者の観察や運搬、救急車や保護者への連絡、救急隊員への引き渡しなど、実際に役割分担をしながらシミュレーションを行いました。子どもの命を守るには、とっさの判断が正しくできることが求められます。日ごろからの訓練が大切です。



遊具から落ちて頭を強く打ったという設定です。



保健室に見立てたランチルームに運びました。



時系列で記録を取り、分担に従って動きます。



最後に振り返り。この振り返りがとても大切です。



## 学校長のつぶやき ～ TOKYO2020 オリンピック・パラリンピック～

7月23日に始まった「東京オリンピック」が、17日間の会期を終え8月8日に閉幕しました。鹿田小学校ではオリンピックに向けて、「聖火リレーの絵」を描いたり、本物の「聖火トーチ」を見たり触ったりする中で、オリンピックへの期待が高まっていったように思います。日本国内で行われたオリンピックでした。きっと子どもたちはワクワクドキドキしながら、世界のトップアスリートたちが躍動する姿を、目に焼き付けたことでしょう。子どもたちの中には「自分も将来あの場所に立ってみたい！」、そのような思いをもった人がいるかもしれません。私も毎日、テレビのチャンネルを切り替えながら、できるだけ多くの競技を観戦しました。新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期されたオリンピックでした。オリンピックの開催直前から新型コロナウイルスの感染者数が増え始め、「オリンピック開催は難しいのではないか。」、そんな声も上がる中、東京オリンピックは閉幕しました。柔道の渡名喜選手の銀メダルに始まり、女子バスケットボールの銀メダルまで、金メダル27個、銀メダル14個、銅メダル17個、日本にとっては史上最多となる合計58個のメダルを獲得しました。メダルを獲得した選手も残念ながら獲得できなかった選手も、多くの選手が競技後のインタビューで、うれしかったことや悔しかったことに加えて語ったこと、それは「感謝」の言葉でした。家族へ、仲間へ、コーチへ、ボランティアの人へ、そしてオリンピックが開催されたことへの感謝の言葉でした。この日のために努力を積み重ねてきた選手たちにとっては、競技ができることそのものが喜びだったのだと思います。今行われているパラリンピックでもそれは同じです。力の限りを尽くして競技をしている選手の姿には心を動かされます。コロナ禍の中、オリンピック・パラリンピックの開催には賛否両論ありますが、そんな選手たちの姿には大きな拍手を送りたいと思います。

